

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101849		
法人名	医療法人 萌梅会		
事業所名	総合介護センター あおぼの里 さくら		
所在地	和歌山市 湊1115-55		
自己評価作成日	平成28年5月11日	評価結果市町村受理日	平成28年6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070101849-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070101849-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成28年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街の中にありながら、広々とした庭と畑がある木造2階建てのレンガ風のグループホームです。芝生の広がる庭には、季節の花や桜・花ミズキが咲き、びわ・みかんなどの果物や野菜を利用者様と育てています。天気の良い日には、花にお水をあげたり、近所を散歩したりと穏やかな日々をすごされています。又、回転寿司・買い物・ドライブ・等に出掛けたり、季節行事の料理も工夫しています。自治会にも加入しており、保育園・小・中・高校や踊りのボランティアの皆さまとも交流して頂いています。医療面では、関連病院と、定期的な往診・健康診断・緊急時対応・入院の受け入れ体制など安心して生活して頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街にある庭付き2階建て住宅の佇まいで、地域とつながりを持ちながら利用者が毎日を自由に楽しめるよう支援している。関連する協力医療機関と連携を密にした体制で健康管理が行われており。痰の吸引や胃ろう処置にも対応できる介護職員の育成にも力を入れて医療面の充実が図られている。食の楽しみを大切にして、利用者一人ひとりの体調や嗜好も考慮して、美味しいものを提供できるよう工夫している。劇や踊りのボランティアの訪問も定期的であり、セラピー犬の訪問なども取り入れて楽しみを持った暮らしができるよう取り組んでいる

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の共有に努め、スタッフ一人ひとりが理念に基づいたケアを実践している。	職員一人ひとりが理念を意識して日頃の業務の中で利用者を主体とした関わりができるよう、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の中の一員として交流している。運営推進会議の際には地域の方や利用者を変えての交流を行っている。	ボランティアによる劇や踊り、手品等の訪問があり、近隣住民と一緒に催しを楽しむこともある。地域の祭りや運動会への参加が行われている。幼稚園の行事で園児と触れ合う機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方と利用者の交流を通じて認知症の方への理解や支援などについて取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、リーダー会議で話し合い、サービスの向上に活かせるよう努力している。	近況報告、行事報告の後、地域包括支援センター職員、自治会長、利用者家族が出席して話し合っている。多くの意見や要望が聞けるよう毎回違う家族に声を掛け参加を要請している。	テーマを決めてゲストを招いたり、家族会の機能を持たせたりなど、毎回、形態や内容を工夫して、より有意義な会議となり運営に活かされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと市役所の担当者とはサービスについてのアドバイスをもらうなど協力関係を築くようにしている。	機会があるごとに市役所に足を運んで、新たな制度について質問をしたり、事業所のサービスの実情を知らせるなどして、協力関係を築こうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのケアを実践している。玄関・ユニット間・エレベーター・居室は施錠せず利用者は自由に行き来できるようにしている。	利用者主体の自由な生活を守ることを大切にしており、過去には安全確保の為エレベーターの鍵を使用していた時もあったが、日頃の利用者の行動パターンを把握することで施錠の必要はなくなり、職員の見守りの中で安全に過ごせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は虐待につながらないよう、お互いに注意を払い、ケアの方法や声掛けの方法を話し合い、実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は管理者が研修を受講し、施設内にて勉強会の実施に努めている。又、日常生活自立支援事業や成年後見人制度の活用もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族に十分な説明を行い、不安な事や疑問点は理解・納得できるまで説明している。解約時も同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に意見、要望などを聞くように心がけている。又、直接言いにくいことがある場合は玄関に苦情受付箱を設置し、意見、要望などあるは速やかに対処するように心がけている。	家族の訪問時に話しを聞くようにしている。訪問が少ない家族には電話連絡の際に意向を聞いている。家族が集まる機会となるようクリスマス会やお茶会などの行事への参加を呼び掛けている。	アンケートの実施や、意見交換の場を提供するなど、様々な角度から家族の意見を集められるよう工夫し、運営に反映していけることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はスタッフ会議等で出された意見や提案を検討し、運営に活かせるよう対応している。	施設長、管理者、各ユニットのリーダーが常に職員の意見を聞く姿勢を持ち、必要に応じて月1回のリーダー会議で検討しサービス改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績を評価し、やりがいをもち働けるように職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護研修への参加を促し、取得した知識は施設内においても伝達している。法人内外の勉強会への参加もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な施設や同業者と交流したり研修等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所により、環境が変わることへの不安を少しでも取り除けるよう傾聴し、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して家族を預けることができるよう不安に思う事や困っている事を言いやすい関係性を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き、何の支援が必要か考慮し、他のサービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を大切に、適切な距離感を保ちながら信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日常の様子や出来事を常に報告している。面会の時は一緒に過ごす時間を大切に、絆を深められるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの人生を知り、本人の希望する場所(お墓参り・自宅・買い物)に同行する支援に努めている。	ユニット内での職員やそれぞれの利用者との関係の中に、入居後の馴染みの関係が築かれており、打ち解けた雰囲気の中で自然な会話が交わされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間も自由に行き来し、利用者どうしの関わりあいも増えている。孤立しがちな利用者に関してはスタッフが間に入り、コミュニケーションがとれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要時に相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を把握し、利用者本位の暮らしができるよう努めている。	利用者の思いを大切にしている。言葉が出にくい利用者も首の振り方や表情で思いを受け取り、利用者本位の支援に努めている。利用者の思いや意向を職員間で共有するための記録はあまり残されていない。	一人ひとりの利用者の思いや意向を記録に残し、職員間で共有してよりよい支援に繋げていくことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話から得た情報や、家族からの情報をスタッフ間で共有し、その人らしい生活ができるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が意欲的に暮らせるよう利用者家族の意見やアイデアを反映し、利用者本位の介護計画が作成できるよう努めている。	利用者・家族の意向を取り入れて計画を作成しているが、長期目標、短期目標と支援内容の関連が明確でないものもあり、見直し内容と新しい計画のつながりも分かりにくいものがある。	一人ひとりの状況にあった分かりやすい計画を作成し、実践結果を次につなげていき、利用者のより充実した生活に活用できることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果・気づきを記録し、スタッフ間での情報の共有に努めている。変化のある時は計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り利用者や家族の状況やニーズに応じたサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアに来てもらったり、地域の高校生の職場体験を受け入れたり関わりを持ち、暮らしを楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院から定期的に往診を受けている。提携病院・歯科以外の受診希望は本人や家族の希望に任せ、他の医療機関を受診している。	ほとんどの利用者が協力医療機関を希望し週3回の往診を受けている。連携により、眼科、歯科の専門医の往診、訪問によるリハビリなどを希望して受けることもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院から看護師や理学療法士が定期的に訪問し、健康管理や支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から主治医・看護師と連絡を密にとり、利用者が入院した時は、情報を共有し、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は終末期のありかたについて早い段階から本人・家族と話し合い状況に応じてその都度確認をしている。	利用者の状態が変化したときは、利用者、家族、職員、主治医、看護師で話し合い取り組んでいる。看とりの経験はないが、資格のある介護職員を配置し、胃ろうの処置や痰の吸引にも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修に参加したり、急変時の対応等を勉強できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っている。避難場所や消火器の場所等の確認も行っている。	年2回消防署の協力で訓練を行い、前は夜間を想定した訓練がなされた。火災については全職員がマニュアルに定められている避難経路を把握しているが、津波についてはマニュアルを定めていない。	海に近い立地でもあり、津波についての避難マニュアルの作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応することを心掛けている。	家庭のようにくつろいだ雰囲気、方言も交えて親しみをこめた会話をしている中に、一人ひとりを大切にして尊重している姿勢がみられる。排泄支援は羞恥心にも配慮した対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が気兼ねなく思いや希望を表せるよう接している。その中で意思のほとんどを自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切に、その思いに添えるよう一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選び、整容している。美容室の出張サービスを利用し、本人の意思で髪型を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には一緒に買い物に同行してもらったり、配膳や後片付けを共にしている。	美味しく食事ができるよう取り組み、胃ろうから経口食に戻れた利用者もいる。調理は業者に委託しているが、配膳、片付けは職員と利用者で行うことが多い。庭の畑で収穫した野菜も食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をその都度記録し、一人ひとりの状態に合わせてバランスがとれるよう気をつけて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で一人一人の排泄パターンを把握して声掛けを行うことによりトイレで排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握により、一人ひとりに声掛けをして昼間はトイレに誘導している。退院後ベッドに寝ていても、医師と相談して排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう排泄表を活用し運動をしたり、水分摂取量を増やしたりして予防に努め、本人にあった下剤の処方してもらったりもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴時間は決まっているが、希望に応じて臨機応変に対応している。希望があれば回数を増やしている。	機械浴設備があるので全ての利用者が週2回入浴出来る。1階に温泉浴場もあるので、希望すれば入れる。入浴拒否の利用者は、言葉がけの工夫で、入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、午睡をとったりしている。夜間眠れない利用者には昼間運動したり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどんな薬を飲んでいるかすぐに確認できるようファイルを作成。誤薬のないよう名前を確認して服薬出来たかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や買い物に出掛けたり、家族に馴染みの嗜好品を持ってきてもらったり、楽しみごと、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を出来る範囲で支援している。介護タクシーを利用し、家族と外出を楽しんでもらう支援も行っている。屋外への散歩も出かけている。	近隣の散歩以外にも、庭に出て洗濯物を干したり野菜の畑で水やりをするなど、日常的に屋外に出る機会を作っている。花見や外食支援は行事として行われ、個別に職員とスーパーで買い物することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。買い物は職員と一緒にいって支払いの支援をしている。お金の所持を希望されている方は買い物は自分で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば時間や相手の配慮を考えて可能な場合はかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾をしたり、家庭的な空間作りに努めている。庭が見えるよう日中は障子を明け、季節の花を飾ったりしている。	キッチンやリビングの家具や調度品のしつらえ、日常の道具類など、一般の家庭にいるような雰囲気与生活感のある空間となっている。建物内は自由に行き来でき、リハビリの器具が置かれた部屋で、自主トレーニングをする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居室でゆっくり過ごす時間やリビングで他の利用者やスタッフと会話したり、歌を唄ったり、物作りをしたり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇や写真を飾る等、今まで通りの暮らしに近づけられるよう工夫している。	各部屋に作りつけの広い収納スペースと洗面台がある。テレビや仏壇、チェストなど利用者がそれぞれの好みの物を持ちこみ、家族写真や、手作り作品を飾るなど、居心地良く整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのニーズの把握に努め、安全な歩行や暮らしができるよう、家具の配置や環境の整備、職員の見守りや声掛けにより安全かつ自立した生活を支援している。		